

平成18年 第1回

## 対馬市議会臨時会

新議長に波田政和氏が就任

平成18年第1回対馬市議会臨時会が5月15日に開会され、平成17年度対馬市一般会計補正予算（第7号）の専決処分承認を求めるとして等、8件の専決処分の承認議案が上程され、それぞれ原案どおり承認されました。

続いて、平間利光議長から提出されていた議長の辞職願について審議され、許可することで決定し、その後、議長辞職に伴う議長選挙が行われ、新議長に波田政和議員が当選されました。

また、新議長の就任に伴い、議席番号の変更と厚生常任委員会委員の変更が上程され、それぞれ原案のとおり決定しました。

### 議長就任あいさつ



対馬の山々に新緑が萌え、草木の香りが漂う季節ですが、市民皆様には、ご健勝にて、お過ごしのこととお喜び申し上げます。

私こと、去る5月15日開会の平成18年第1回対馬市臨時会におきまして、議長という重責を担うこととなりました。身に余る光栄ではありますが、日々が経つにつれ、その責任

の重さや幅広い職務に身が引き締まる思いであります。若輩未知な私ですけど、先輩議員皆様には、これまでの豊富な議会活動のなかで会得されました経験等をご指導くださるようお願いいたします。

地方分権という大波のなか、対馬市も平成の市町村合併の第一陣として、平成16年3月に誕生し、丸二年が経過しましたが、新しいまちづくりの変革期を迎えるなか、難しい課題が山積いたしております。このような状況の下で、市民4万人の負託に応え、市民の生活の向上と幸せを実現するためには、市議会が真にそ

の役割を果たすことがなによりも重要な時期を迎えています。

そして、そのためには、私たち議員の自覚と創意工夫によって、活力ある議会運営を実現していかなければなりません。

選挙によって選ばれる私たち議員は、主権者である市民とスクラムを組み、市民皆様の立場に立つての活動を展開することが、この新しい対馬市づくりの基本であると考えているところであります。

若者が定住し、子や孫が安心して暮らせる地域づくりのために何が必要なのか。松村市長をはじめとする行政サイドとともに、車の両輪のごとく常に支え合い、対馬市発展のため、誠心誠意、議会運営に全力を注ぐ所存であります。

ここに、対馬市議会が新たな一歩を踏み出すに当たり、市民皆様のご支援、ご鞭撻を心からお願ひ申し上げます。議長就任のあいさつといたします。

平成18年6月

対馬市議会議長 波田政和

## = 春の叙勲 =

平成18年度の春の叙勲が4月29日付で発令され、対馬から3名の方々が受章しました。



**瑞宝単光章**  
比田勝利章さん  
ひたかつとしあき

(76歳 上対馬町大増)

昭和22年4月、豊崎村消防団に入団以来、37年間にわたり消防活動業務に従事。特に昭和48年4月以降は、上対馬町消防団本部の副団長として5年間、同団長として6年間在職されるなど、地域防災活動に尽力されました。



**瑞宝双光章**  
山本正俊さん  
やまもとまさとし

(69歳 厳原町久田)

九州歯科大学を卒業後、厳原町の歯科医不足の窮状による招きに応じられ、昭和55年より同町で歯科医療に従事されています。また、長崎県歯科医師会对馬支部長等の要職を歴任され、現在も地域歯科医療の指導的立場で活躍されています。



**旭日双光章**  
財部司さん  
たからべつかみ

(70歳 美津島町尾崎)

昭和46年に美津島町尾崎漁協の理事に就任、昭和63年から同代表理事組合長に。また、平成10年3月、同町内の4漁協が合併し発足した美津島町漁協の初代表理事組合長に就任。地域漁業の振興及び組合発展に尽力されました。

栄えある受章、おめでとうございます。

# 日米友好 青い目の人形」が対馬に



折り鶴をギュリックさんに手渡す西小学校1年生の中原夕月さん（左）と永留彩さん（右）



「カウラ」の贈呈式（光雲寺）

5月24日、平和と友好、親善を目的に日本の小学校や幼稚園に人形を贈っているアメリカのシドニー・ルイス・ギュリック三世さん（メリーランド州立大教授）が対馬を訪問し、3年前に人形「ナオミ」を贈った西小学校児童との交流や峰町志多賀の光雲寺では新たな人形「カウラ」を贈呈しました。西小学校では、児童、職員等約70名の出迎えを受け、「峰町音頭」を児童らと一緒に踊るなど終始にこやかに歓迎会を楽しみました。また、同校の1年生手作りの折鶴が贈られ、「とてもきれいですね。ありがとうございます」

と日本語でお礼を述べました。光雲寺では、関係者約50名が夫妻を出迎え贈呈式が行われ、教授は「愛と友好を込めて贈ります」とあいさつし、受け入れ実行副委員長の近江キミヨさんに「カウラ」を手渡しました。教授の祖父は、長く日本に暮らしたことのある宣教師で、昭和初期に日米関係の悪化を憂い、日米友好のため1万2千体の人形を日本の子どもたちへ贈りました。教授はその遺志を継いで約20年前から日本に人形を贈り続けています。



市長を訪問した「哲郎君募金対馬の会」のメンバー

## 善意のお返しに、市へ車いすと児童図書を寄贈

「哲郎君募金対馬の会」

海外での心臓移植手術を目前に控えながら、昨年9月に亡くなった福岡県太宰府市の江口哲郎くんを支援してきた「哲郎君募金対馬の会」が、島内で集めた義援金のうち約97万円相当の物品（子供用車いす3台、児童図書約340冊）を対馬市へ寄贈しました。

海外での心臓移植手術などの活動を行ってきました。今回の寄贈は、市民から寄せられた温かい善意に感謝するとともに、亡き哲郎くんの遺志を尊重し、対馬の子ども達のために募金を有意義に役立てようとしたものです。

5月9日、同会を代表し5名が市役所を訪問。寄付の目録と哲郎くんの両親からの手紙を市長へ手渡しました。寄贈に際し、栗山みどり代表は、「哲郎くんの訃報を聞いた時は大変ショックだったが、募金が有意義なことに使われることに、少しは報われた気持ちがある。多くの人に、いつまでも哲郎くんのことを忘れずにいてほしい」と話していました。

「両親からの手紙：市民の皆様へ（抜粋）」

息子哲郎が旅立って8ヶ月が経とうとしております。昨年は、哲郎の為に多大なる温かいご支援を頂き、誠にありがとうございました。願いを叶えることができず申し訳ありませんでした。

この度、募金の一部を皆様のお役に立てさせていただけることになり大変嬉しく思っています。皆様のご健康とご発展を心よりお祈り申し上げます。

本当にありがとうございました。

江口 哲哉  
泉